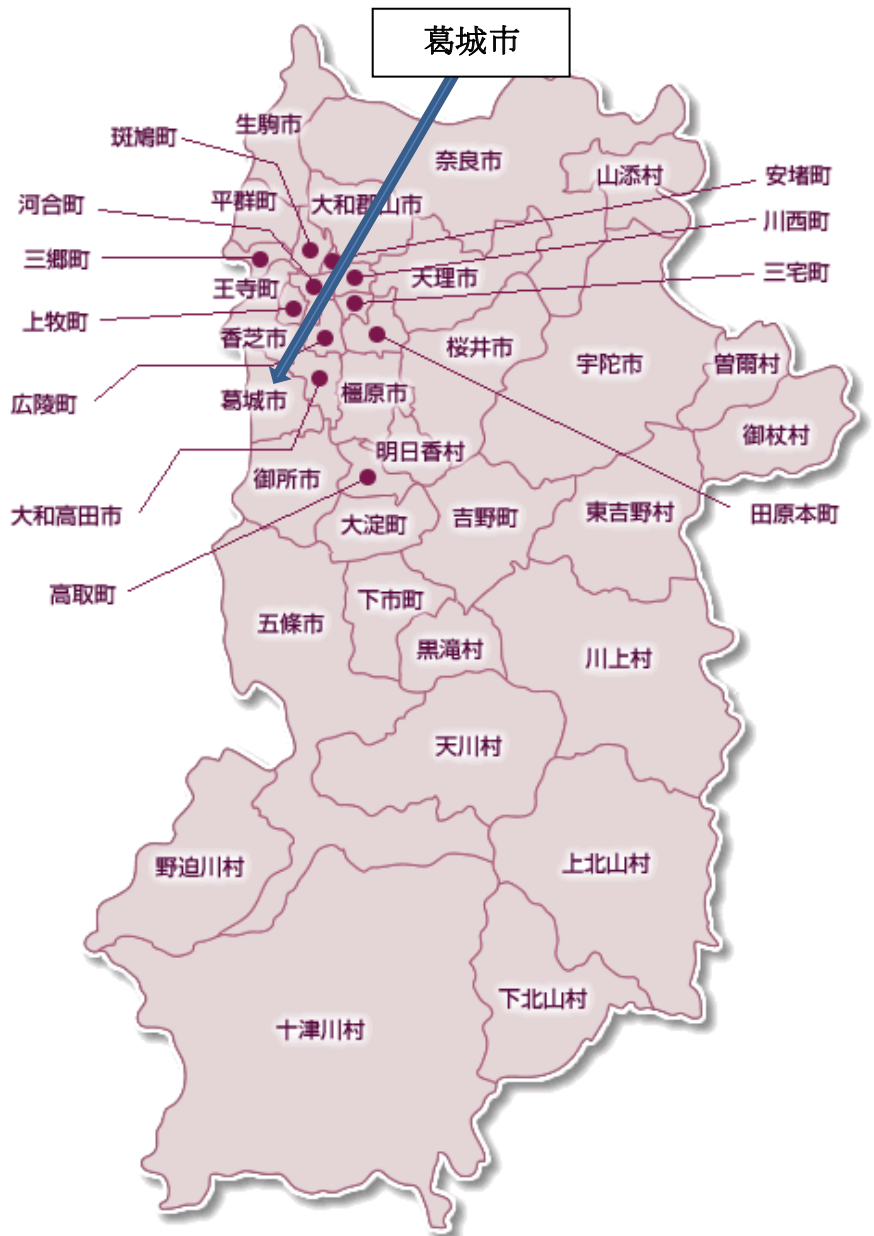


## 心と身体が健やかに育まれるまち 葛城市



今回は葛城市を紹介します。

平成16年10月1日に新庄町と當麻町が合併して誕生した葛城市は、奈良県の北西部に位置し、西は県境を成す金剛山地の山並みと、



東に広がる平野部（奈良盆地）で構成されたまちです。

市内を近鉄南大阪線、近鉄御所線、JR和歌山線が通り、7つの駅があります。近鉄線を利用すれば、大阪市へ特急で30分という場所にあり、南阪奈道路葛城ICを利用すれば、自動車で関西国際空港まで約1時間で到着するという、交通の便に恵まれた立地を備えて

います。

また、日本最古の官道「竹内街道」が市内を縦断しており、その東端は奈良盆地を東西に縦断する古道「横大路」へとつながり、古来より交通の要衝として栄え、平成29年度には、この「竹内街道・横大路」が1400年の歴史の移り変わりを周辺の歴史遺産を通じて感じさせるとして、日本遺産に認定されま

した。他にも、本堂(曼荼羅堂)、西塔、東塔をはじめ複数の国宝、重要文化財を有する當麻寺、相撲の起源として日本書紀に書かれている天覽相撲を行った「當麻蹶速」(たいまのけはや)、歴史の表舞台から立ち去った最初の女帝と言われる飯豊天皇の陵などの歴史遺産があります。

當麻寺では、毎年4月14日に當麻寺練供養(聖衆来迎練供養会式)が開催されます。中将姫は當麻曼陀羅を織り上げた後、29歳で生身のまま極楽浄土へ往生されました。その様相を現したものが練供養です。当日は境内に長い掛け橋が渡され、極楽浄土から二十五菩薩に扮した人たちが、娑婆堂に進み中将姫を蓮台に乗せて浄土へ導く、来迎引接のさまを演劇的にあらわした古い宗教行事です。

毎年4月23日は二上山麓周辺地域の人々が岳登りと称して、二上山へ登る伝統的な行事があります。その歴史は古く、江戸時代に出版された「西国三十三所名所図会」という書物にも記されています。現在は二上山美化促進協議会(葛城市・香芝市、太子町)主催の美化促進運動と重なり、清掃登山の目的も含み登るようになりました。



二上山

また、當麻蹶速の顕彰と相撲の普及のための観光拠点となっている、全国でも珍しい相撲の資料館、相撲館「けはや座」があります。相撲館には本場所と同じ大きさの土俵があり、誰でも上がることができるとあって外国人観光客にも人気を博しています。毎年7月には「けはや法要」(葛城市観光協会主催)を行っています。現役力士安全祈願並びに物故力士追善法要が営まれ、法要終了後には「相撲大会」などを開催しています。



相撲館「けはや座」

#### ◇葛城市の概要◇

葛城市の人口は、平成30年10月末現在で、37,471人です。他の市町村とは違い微増となっています。高齢化率は、27・21%と徐々に上昇しています。

国民健康保険の被保険者数は、30年10月末で9,290人、加入率は24・79%と県内の他の市町村と同様に、少しずつ減少しています。

## 葛城市概要データ

〈平成30年10月末現在〉

面積	33,720km <sup>2</sup>
人口	37,471人
世帯数	14,692世帯
高齢化率	27.21%
国保被保険者数	9,290人
国保加入率	24.79%

### ◇葛城市の国民健康保険事務◇

葛城市の国民健康保険事務の担当課は、保険課で、東 錦也課長、葛本 康彦課長補佐から状況を伺いました。

保険課は、2つの係があり、11人体制（育休1人を除く）となっています。国民健康保険では主に国民健康保険の資格と給付、国民健康保険税の賦課に関する事務を、医療係では主に後期高齢者医療、福祉医療制度に関する事務が行われています。また、保健事業として、人間ドック事業や特定健診の受診券発行業務等が行われています。



葛本課長補佐

東課長

### ◇国保料の収納率は県平均を上回る◇

国民健康保険料の収納状況（収納率）は、平成27年度が93・92%（県平均93・72%）、平成28年度が94・30%（県平均93・89%）、平成29年度が94・50%（県平均94・48%）で、県平均を若干上回っています。収納率アップの対策として、従来から年末と年度末に実施される戸別訪問による納付の督促及びコンビニ納付の実施等が行われており、着実に収納率アップにつながっているようです。

### ◇1人当たり医療費の低さは県下トップ級◇

葛城市の1人当たり医療費は、平成27年度313,609円（県平均348,160円）で県内3位、平成28年度315,820円（県平均350,564円）で県内3位、平成29年度333,333円（県平均359,907円）で県内4位とかなり低い金額となっています。

その要因を伺ったところ、平成16年10月の合併以前より、旧町において健康日本21に沿った計画を基に、健康づくり推進員さん等を中心とした住民参加の健康づくりに取り組んでおり、また、市制以降は「葛城市健康増進計画・葛城市食育推進計画さらに葛城21」を策定し、より住民参加型の健康づくりに努め、庁内連携を深めてきた結果であると考えています。これからも健康増進担当部局と協力しながら、特定健康診査の受診率向上に力を入れ、健康意識の向上と健康寿命の延伸に繋がるよう、医療費の適正化に努めていきますと述べられました。

### ◇国保の担当職員紹介◇

葛城市の保険課について、4月の新規採用で国保業務に就かれている金森 尚道さんに

お話を伺いました。



新採の3人、中央が金森さん

Q… 国保担当になってどう感じていますか。

A… 覚える内容が多く、勉強して知識をつけたいと思ったら、また身につけないといけない知識がどんどん増えて、幅広く奥深い分野であると思っています。

Q… 窓口に出て感じることや対応して思うことはありますか。

A… 住民さんに笑顔で帰ってもらうことが一番うれしいですが、国民健康保険という

制度の中でお応えできない要望もあつたりします。その際に、こちらから何も提案することができなかった時は、悔しい思いをすることもあります。

Q… 国保業務をやっていてよかったと思うことはありますか。

A… 窓口で笑顔になってもらえた時が一番良かったと思います。具体的な話で言うと、入院費が高額になり、どうにかならないか尋ねてこられた方にこちらの分かる知識や制度の中で提案して満足して帰ってもらえた時は、やりがいを感じます。

Q… 笑顔ですか？

A… はい、住民さんの笑顔、自分たちの笑顔とお互いの笑顔になればそれが一番ですね(笑)。

### ◇笑顔のある雰囲気づくり◇

また、このやり取りを受け、東課長と葛本課長補佐は、窓口では、あいさつをはっきりすること、丁寧な対応をすること、難解な制度を理解しやすくお伝えすること等、あたりまえのことですが、あたりまえに出来るよう努力を続けてくれていることで、住民さんに

気持ちよく帰ってもらえているのではと思っています。新しい空気が入り、よかった面もあると思います、と述べられました。インタビューの中で「住民の方に喜んで帰ってもらいたい」という想いを強く感じ、そういう課の雰囲気が「笑顔」に繋がっていると感じました。



保険課の様子